
ロンリーワンマンライブ

書き介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロンリーワンマンライブ

【Nコード】

N9911N

【作者名】

書き介

【あらすじ】

他人とは一定の距離をとろうと思う俺。馬鹿っぽいくせに妙に頭の冴えるノリ。間抜けなうえ変に真っ直ぐな哲哉。そして、「ヒキコモリ」になった堤。まあ、俺には関係ないけどね。……とか言いつつめちゃくちゃ首突っ込んでますが。だからこれは俺と俺の周りのやつらの物語。いや、堤とその周りの俺ら、の方が正しいかもしれないな。

プロローグ

堤 咲希という名の女子高校生は、どうして「ヒキコモリ」になっってしまったのだろうか、なんて著しくお節介な空想に身を投じてみることにして、まず一番に俺が考えるべき事柄は一体何なのだろうか。

時期、期間、年齢、環境……まあ色々あるだろうが、合理的に優先順位を決めて考えてみるのとは全く持って無縁に、この俺の決して聡明とはいえない凡庸な頭脳に真っ先に浮かんできたのは、彼女の本来の性格だった。所詮、俺は理詰めより感情論の文系男子なのである。……いや、これは俺の勝手な偏見だけだ。

とにかく、堤 咲希という一人の同級生と過ごし蓄積してきた日々を辿っていくと、俺の記憶の中の彼女はいつも笑っている。根っからの明るいやつなのか、それともちょいとおかしいやつなのか？と疑ってみたくなる気も山々なのだが、俺は一応前者ということ考察を終えている。世の中大切なのは、適当なところでの妥協なのだ。

堤 咲希はそりゃーもーそりゃーもー非常に明るく快活な美少女であります。

だから俺は「ヒキコモリ」版の堤を想像することができない。薄暗い部屋の中で、布団に潜り苦しい呼吸をしながら孤独に耐え、無意味に日々を消費していく堤を想像することも妄想することもできない。

親の脛を噛みちぎる気満々に、スナック菓子を口一杯に頬張りながらPCのキーボードを乱暴に叩く堤なんて尚更だ。そこまで荒ぶるワイルドレディは俺の乏しい連想力じゃ最早ゾンビぐらいだったりする。

なーんて、砂を噛むようなボケはこれくらいにすることにして。

認めるのも癪だが、妥協なんてのはもちろん冗談なのだ。俺が見る限り、あいつは間違いなく明るく、この世にまたとないポジティブ女のはずである。明日地球は爆発します、ってどっかの政府が宣言したって、平気で笑っていられるような。

それとも俺が見て、感じて、判断した全てはまやかしだったのだろうか。彼女はすべてをうまく偽って、俺を騙し通していたのか。

まあ、あり得る。

俺には人を見る目もないし、残念ながら嘘を敏感に察知できるようなチート能力も持ち合わせていない。

堤がかなりの演技派で、実は底無しに暗い性分だったりするならば、それは充分過ぎるほどにあり得ることだ。むしろ「もうそれが答えでいいじゃない」なんて、ポワロかそこらの探偵さんが行う無駄に長い犯人探しに耐えかねた貴婦人が投げやりに吐き捨ててしまふくらいの名推理だったりする。

蛇足とわかって言わせてもらうと、そんな貴婦人の右隣に座ってる美少年あたりが犯人だったりするんだよね。

さてさて、閑話休題。

話を本旨に戻そう。

堤 咲希は、何故「ヒキコモリ」になったのか。

正直に言うなら、そんなもんわからない。わかるはずもない。そもそも俺自身、あまり他人と関わりを持つとは思わないのだ。そんな人間が他人のことを慮るなど、まるで雲をつかむような話である。

他人を理解すること、し合うこと、それは到底無理なこと。俺はそう考えるし、そう思う。

じゃあなんでお前はここにいるんだよ、と自問してみる。そして自答してみよう。

さあ？

明確な理由なんてないさ。堤が気になって？ 単なる好奇心？俺が何とかできるとでも？ そのすべてを俺は綺麗さっぱり否定することができる。他人と関わりを持つのは嫌いではないけれど、他人と関わりを（無理に）持つとするのは嫌いだ。過度な干渉も、下手な慰めも反吐がでる。それができるほど俺は人間が出来てないし、自惚れてもない。

けれど俺はここにいる。ぬけぬけと自分の意志でここに立ち、普段の俺の理念に反しまくってここに存在している。その事実に関か理由を持たせなければいけないのなら、羞恥を忍んでこうしようじやないか。

不意に彼女の歌が聴きたくなつたから、かな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9911n/>

ロンリーワンマンライブ

2010年10月29日13時10分発行